

春光



画題名:「天使と遊ぶ」 技法:「フンペラ」 橘祭(二〇一七)出品作品
作者:窪田ヨシ子(旧姓:松井 昭和35年被服本科卒)



ご挨拶
京都橘中学校・高等学校春光会
会長 松尾 律子
(旧姓:森野 昭和35年被服本科卒)

木々の緑も一段と輝きを増し、さわやかな頃となりました。

卒業生の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。日頃は、春光会に対しまして、ご支援、ご協力を賜り心から厚くお礼申し上げます。

二〇一八年三月一日、中高一貫Vコース三期生を含む一四期生二七二名の方が卒業され、春光会に入会されました。学校での学習、多くの体験を活かし、更なる新しい生活に立ち向かって行かれます。

今号では、卒業生の皆様に母校で展開されている感動の数々をご紹介します。



ご挨拶
京都橘中学校・高等学校
校長 三輪 欣之

今年も若葉萌える季節がやってまいりました。橘の花もそろそろ楽しめるのではないかと思います。同窓生の皆様におかれましてはますますご健勝のことと存じます。日頃より母校への物心両面でのご支援を賜り誠にありがとうございます。

二〇一七年度は「学園マスタープラン2022」実行三年目として長期ビジョンの実現に向けてさまざまな施策に取り組み、着実な成果を上げてきました。この「京都橘学園マスタープラン」の今後の進行についてですが、四年サイクルでまとめて発展させていくことにしました。二〇一八年度の一年間をかけて中間まとめをし、二〇一九年四月には基本的な考え方を整理するとともに、第二次マスタープランのフレームと策定スケジュールを提示します。今後とも暖かく見守っていただきたくお願い申し上げます。

吹奏楽部が二〇一八年一月一日、世界最高峰のアメリカ屈指の盛大なパレードであるロイズパレードに出場、日本代表・アジア代表として史上初二度目の出場となりインターネットを通して全世界に紹介され称賛の声がよせられました。一月二日、第96回全国高校サッカー選手権大会6年連続7回出場!一月四日、第69回全日本バレーボール高校選手権大会19年連続21回出場!全国選抜ジュニアテニス選手権大会全国ベスト16!他、陸上競技部・太鼓部等々素晴らしい成績や選抜のニュース!

六月に春光会の総会、九月に橘祭に参加、十月に秋の散策、是非一度ご友人と一緒にご参加下さい。現在の母校に共にエールを送りましょう。多くの卒業生の皆様のご健勝と母校のますますのご活躍・ご発展を心からお祈り申し上げます。

卒業生の活躍は報道で既にご存知のこととは思いますが、サッカーJ2京都サンガの仙頭、小屋松、岩崎の三選手の活躍とともに、バレーボールではJTマーヴェラスの井上選手が全日本代表としてグラウンドチャンピオン大会でベストリベロ賞の活躍があります。二〇二〇年東京オリンピックに京都橘から何名が出場してくれるのか楽しみです。また在校生たちも頑張っています。大学合格結果は全体では前年度よりも総数では少なくなっています。東大はじめ阪大、神大と難関国立大学の合格を勝ちとってきています。またクラブ活動でも吹奏楽部ロイズパレード出場や陸上競技部リレーでのインターハイ二位などがあります。

最後になりましたが二〇一八年入学生徒数が三月二十二日の高校一斉登校日に確定しました。厳しい社会情勢の中、全教職員で生徒募集に取り組んでまいりました結果、中学校六七名、高等学校三三名(内部Vコース生四七名含む)となりました。人口減少という逆風の中、桃山移転後最高の全校生徒数一、一九〇名となりました。社会に貢献し、活躍できる人材育成のため今後も努力を続けてまいりますので、変わらぬご支援をお願い申し上げます。

2016年度 会務報告

2016年4月～2017年3月

2016年

- 4月8日 京都橘中学校・高等学校入学式 (臨席)
- 6月11日 役員会
- 6月26日 総会 (京都タワーホテル)
- 7月、8月 バレーボール部、陸上競技部、男子サッカー部 全国IH出場、太鼓部 全国高校総合文化祭出場 (お祝い金贈呈)
- 7月16日 役員会
- 9月 9日 役員会
- 9月10日 学園祭
- 10月15日 秋の散策 (大阪市内方面)
- 12月 バレーボール部 春高バレー出場、男子サッカー部 全国高校サッカー選手権出場 (お祝い金贈呈)

2017年

- 1月21日 役員会
- 2月18日 役員会
- 2月28日 春光会入会式
- 3月1日 京都橘高等学校卒業式 (臨席)
- 3月17日 京都橘中学校卒業式 (臨席)

2017年度 春光会総会報告

6月24日(土)2017年度春光会総会が、懐かしい中立売校舎跡地に建てられた京都ブライTONホテルで開催されました。

会員32名、学校3名の参加でした。

総会では「会務報告、会計報告、予算案、役員」が提案され、いずれの議案も満場一致で承認されました。

総会終了後は退職教職員の会である「橘翔会」と合同で懇親会がありました。

卒業生から舞踊、恩師 辻喜代子(小笹)先生の素晴らしい音楽を聞かせてもらいました。懐かしい恩師、旧友と談笑したり、楽しい時間を過ごしました。

最後は平松先生の指導で校歌、応援歌を合唱して解散しました。



【春光会2016年度決算】

自 2016年4月1日 至 2017年3月31日

収 入				
項目	予算	決算	増減	備考
入会金	2,710,000	2,710,000	0	@10,000×271名
預金利息	1,000	25	△ 975	
寄付金収入	180,000	195,000	15,000	寄付金
雑収入	45,000	40,450	△ 4,550	橘祭売上等
参加費等収入	800,000	773,654	△ 26,346	総会・秋の散策参加費、弁当代
仮払収入	0	104,146	104,146	
預り金収入	10,000	0	△ 10,000	
基本財産より戻入	0	0	0	
前年度繰越金	4,976,565	4,976,565	0	
合計	8,722,565	8,799,840	77,275	

支 出				
項目	予算	決算	増減	備考
事業費	3,000,000	2,706,400	△ 293,600	会報発行費用・入会記念品 他
支部補助費	30,000	37,268	7,268	同窓会補助
慶弔費	160,000	152,400	△ 7,600	本鼓部・バレー部・陸上部、サッカー部祝い金、寿喜焼代
交通費	210,000	138,000	△ 72,000	役員会 他
会議費	50,000	28,080	△ 21,920	弁当代
事務費	200,000	124,796	△ 75,204	切手・ハガキ・メール便等 役員通函費・橘祭諸費用 他
寄付金	0	0	0	
事務委託費	50,000	50,000	0	業務委託料
予備費	0	0	0	
雑支出	0	0	0	
仮払支出	0	104,146	104,146	
預り金支出	10,000	0	△ 10,000	
前期末未払い金	0	38,664	38,664	
未払金	0	△ 5,648	△ 5,648	同窓会補助
基本財産へ組入	1,000,000	1,000,000	0	経常費から基本財産へ100万円組入
次年度繰越金	4,012,565	4,425,734	413,169	
合計	8,722,565	8,799,840	77,275	

基本財産

収 入		支 出	
受取利息	212	一般会計へ	0
組み入れ金	1,000,000	次年度繰越金	7,568,764
前年度繰越金	6,568,552		
合計	7,568,764	合計	7,568,764

財産目録

経常費の部	現 金		金額
	京都銀行	普通預金	
	京都銀行	普通預金	437,291
	ゆうちょ銀行	振替口座	3,969,335
			19,108
基本財産の部	京都銀行	定期預金	4,000,000
		普通預金	3,568,764
合計			11,994,498

【春光会2017年度予算】

自 2017年4月1日 至 2018年3月31日

収 入	金額	備考
入会金	2,730,000	@10,000×273名
預金利息	1,000	
寄付金収入	180,000	@1,000×180口
雑収入	40,000	橘祭売上等
参加費等収入	800,000	総会会費(橘翔会分含む)、秋の散策参加費等
仮払収入	0	
預り金収入	0	
基本財産より戻入	0	
前年度繰越金	4,425,734	
合計	8,176,734	

支 出	金額	備考
事業費	3,000,000	総会支払・秋の散策・会報印刷・郵送料・記念品他
支部補助費	40,000	1支部・学年・クラス会
慶弔費	160,000	クラブ関係お祝い金
交通費	200,000	役員会・会報誌取材
会議費	50,000	お茶代等
事務費	200,000	役員会案内郵送代、メール便代等、弁当代
事務委託費	50,000	京都橘中学校・高等学校への事務委託費
雑支出	0	
予備費	0	
仮払支出	0	
預り金支出	0	
前期末払金	5,648	
未払金	0	
基本財産へ組入	0	
次年度繰越金	4,471,086	
合計	8,176,734	

上記2017年度総会において承認済みのものである。

単位：円

2017年度
春光会役員

会 長	松尾 律子 (昭35卒)
副 会 長	安田紀代子 (昭40卒)
会 計	松村 典子 (昭41卒)
会 計 監 査	三上 幸子 (昭35卒)
常任委員	宮本 芳美 (昭41卒)
常任委員	萱沼 房子 (昭35卒)
常任委員	川辺 幸子 (昭35卒)
常任委員	奥川ノブエ (昭19卒)
常任委員	出村美枝子 (昭35卒)
常任委員	石村 常枝 (昭40卒)
常任委員	奥野 晃子 (昭41卒)
常任委員	菜島 雅代 (昭52卒)
常任委員	上田 章子 (昭54卒)
常任委員	善積 和子 (昭54卒)
常任委員	小林 栄 (昭54卒)
美山支部	小中 令子 (昭45卒)
相談役	吉岡 春美 (昭41卒)
中井 美実 (昭54卒)	西崎 信子 (昭57卒)
森川 節子 (昭57卒)	宗 裕子 (昭58卒)
井上 和子 (昭58卒)	村上夕美子 (昭58卒)
森安 優子 (昭61卒)	西村 有恵 (昭63卒)
平野万里子 (昭63卒)	山本 美和 (昭63卒)
寺田 由香 (昭63卒)	吉川 等子 (昭63卒)
小松 里奈 (昭63卒)	中辻 道子 (昭63卒)
幡井 信子 (昭63卒)	武永 康宏 (昭63卒)
西村 裕介 (昭63卒)	美山支部
	小中 令子 (昭45卒)
	相談役
	吉岡 春美 (昭41卒)

寄付金のお礼とお願い

本年度も春光会に対して、多くの会員の方々からご寄付をいただきました。氏名を掲載し、お礼に代えさせていただきます。引き続き一口千円の寄付を受け付けていますので、同封の振込用紙でお願いします。住所、氏名と通信欄の寄付の欄に「口数、金額」をご記入ください。あわせて、卒業年、科も忘れずにご記入ください。

「寄付をいただいた方々(敬称略)」

昭和15・本	中田 幸子
19・裁	藤居 哲子
22・専	竹本 文子
24・専	森田 道子
25・普	藤井 昭子
27・本	日名 千鶴
29・本	永野 節子
30・被	芦田 賀寿
35・商	黒川 貞子
35・商	三上 幸子
35・被	安達 与志子
35・被	今村 富子
35・被	萱沼 房子
35・被	川辺 幸子
35・被	窪田 ヨシ子
35・被	中村 育子

35・被	福井 貴子
35・被	松尾 律子
37・被	長瀬 郁子
40・被	森 温子
40・被	安田 紀代子
40・普	石村 常枝
41・商	荒川 浩子
41・商	上杉 悦子
41・商	宮本 芳美
41・被	長瀬 昌子
41・被	信田 あや子
41・被	松村 典子
41・被	村山 季美枝
48・商	細見 佳壽子
63・普	平野 万里子
平成22・普	山口 恵未



十月十四日(土)に春光会(同窓会)・橘幸会(卒業生の父母の会)・橘翔会(退職教職員)の会)の合同で、秋の散策を実施致しました。今年の名古屋方面へと東に向けた旅となりました。

まず最初は、トヨタ産業技術記念館に。『紡ぐ。織る。』技術の基本と歴史を知る、繊維機械館。私達を迎えてくれたのは、大きな環状織機。「研究と創造の精神」を伝える当館のシンボルトヨタグループの創始者・豊田佐吉が一九〇六(明治三十九)年に発明した独創的な織機で、回転円運動により布を織り上げます。次の糸が出来るまでのコーナーでは、綿から種をとり除き、①引き出し②撚り掛け③巻き付けの糸を紡ぐ三つの要素は、今も昔も変わらないそうです。又、色々な織機があり



現在に至るまで非常に興味深いものでした。次に、『開発・生産・技術の変遷を学ぶ自動車館』創業者・豊田喜一郎とその仲間たちが情熱を傾け、一九三六(昭和十一年)年に完成させた、トヨタの初の乗用車(トヨタスタンダードセダンAA型)等々、自動車に興味をお持ちの方には素晴らしい光景であろうと推察致します。

昼食は、サッポロビール名古屋ビール園造養園にて。天井七メートルの吹き抜けと、沢山の人々と、にぎやかに

ビール、ジンギスカンや天むす等、お味は...!?これも旅の思い出に!

そしてノリタケの森へ。緑あふれる園内、クラフトセンターでは製造工程を見学でき、その中にあるノリタケミュージアムでは、創業当時から第二次世界大戦終結までに作られた「オールドノリタケ」図案や色鮮やかに描いた画帖、そして今日までに作られたディナーウェアなど展示。数々の「金点盛」装飾はオールドノリタケの特徴の一つで米国を中心に骨董収集家たちの間で高い評価を得ているそうです。

今回の名古屋方面の旅は、時代とともに移り変わる中にも日本のものづくりの偉大さと、世界における日本の本物の素晴らしさを、大きく伝えていく様に思いました。

当日の天気予報は雨でしたが終日雨が降る事もなく、参加された皆さんの色々な思いを乗せたバスは、夕闇迫る京都の町に到着致しました。

次回秋の散策(二〇一八)は、淡路島方面を企画致しました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。



入試状況

(中学校)

開校九年目のVコース。落ち着いたキャンパス・校風の中、京都橘での六年間で心身ともに大きく成長を遂げていく生徒の様子に安心感・期待が高まっています。今年度より公立中高一貫校の入試に対応したT入試（適性検査型入試）を導入、本校の志望度が高いと思われる初日午前の受験者に加えて、T入試受験者の増加もあり、志願者は前年比一〇七％の三一九名と増加しました。入学者も昨年の六八名に続き、今春も六七名（定員六十名）を迎えるのスタートです。親子二代、また二人・三人と兄弟姉妹で在籍中のご家庭も多く、「橘ファミリー」がさらに増えていきます。

(高等学校)

二〇一八年度入試においては、昨年

より定員増（四十名→六十名）を行った国公立進学（S）コースの人気に加えて、二〇二〇年の大学入試改革を視野に入れた探究型の学びで様々な取り組みを行う特別進学（E）コースの志願者が昨年を上回りました。志願者数は昨年の一、六四八名に続く一、六〇九名、中でもSコースは「最高志願倍率一一・一倍」と今年も新聞各紙でとりあげられました。入学者も昨年の三三五名に続き二七二名（定員二六〇名）の外部入学者を迎え、内部進学者をあわせて一〇クラスでスタートです。また総合進学（A）コースもクラブ活動をはじめ豊かな高校生活を送っており、全てのコースが各々の特色を持って、生徒たちは研鑽に努めています。

「卒業後いつ訪ねても」あの時の先生がいる！これが私学の良さの一つ

進路状況

二〇一七年度は二一四期生二七二名（Vコース三期生四二名を含む）の生徒が本校を卒業していきました。京都橘大学へは五三名が進学しました。二〇一八年度入試は国公立大学の合格は、東京大学、大阪大学、神戸大学をはじめ四六名（大学校含む）合格となりました。私立大学には難関私立大学（関関同立・早稲田）一六名を含め、延べ七二二名が合格しました。私大の定員厳格化のため、きびしい入試でしたが、最後まで諦めずに頑張った結果です。

より定員増（四十名→六十名）を行った国公立進学（S）コースの人気に加えて、二〇二〇年の大学入試改革を視野に入れた探究型の学びで様々な取り組みを行う特別進学（E）コースの志願者が昨年を上回りました。志願者数は昨年の一、六四八名に続く一、六〇九名、中でもSコースは「最高志願倍率一一・一倍」と今年も新聞各紙でとりあげられました。入学者も昨年の三三五名に続き二七二名（定員二六〇名）の外部入学者を迎え、内部進学者をあわせて一〇クラスでスタートです。また総合進学（A）コースもクラブ活動をはじめ豊かな高校生活を送っており、全てのコースが各々の特色を持って、生徒たちは研鑽に努めています。

東京大学 理科Ⅱ類 合格！
4年連続 医学部医学科 合格！

おもな大学の合格者数 (3月31日現在)

■国公立大学(46名)

東京大学	1名
大阪大学	2名
神戸大学	3名
広島大学	1名
京都教育大学	2名
京都工芸繊維大学	1名
京都府立医科大学	3名
京都府立大学	1名
大阪府立大学	1名
滋賀大学	3名
滋賀県立大学	3名
奈良県立医科大学	1名

■私立大学(722名)

京都橘大学	316名
関関同立	110名
産近龍佛	110名
早稲田大学	6名
東京理科大学	1名
東北医科薬科大学	1名
大阪薬科大学	1名
愛知学院大学(歯)	1名

■短期大学 5名 ■就職等 5名
■専門学校 14名

2017年度 クラブピックアップ

吹奏楽部

関西マーチングコンテスト
4年連続17回目の出場 金賞(9月 大阪)
ローズパレード出場 アジア代表として2回目の出場(1月 アメリカ)

男子サッカー部

全国高校総合体育大会<インターハイ>
2年連続4回目の出場 ベスト8(7-8月 宮城)
全国高校サッカー選手権大会
6年連続7回目の出場(1月 東京)

陸上競技部

全国高校総合体育大会<インターハイ>
10年連続出場(7-8月 山形)
女子4×100mリレー 2位
国民体育大会(10月 愛媛)
成年少年女子共通4×100mリレー 2位
(壱岐あいこ、吉野史織が2走・4走として出場)
少年女子A 100m 壱岐あいこ 5位
U18日本陸上競技選手権大会
U18女子4×100mリレー 2位

太鼓部

全国高等学校総合文化祭<郷土芸能部門>
18年連続出場(8月 宮城)

女子バレーボール部

全国高校総合体育大会<インターハイ>
19年連続 21回出場(7月 宮城)
国民体育大会<少年女子>
京都橘単独チームで出場(10月 愛媛)
全日本バレーボール高校選手権大会
<春の高校バレー>
19年連続 21回出場(1月 東京)

テニス部

全日本ジュニアテニス選手権大会(8月 大阪)
U16男子ダブルス 内田拓実ペア ベスト16
2017U-15全国選抜ジュニアテニス選手権大会
(10-11月 福岡)
男子ダブルス 内田拓実ペア ベスト16

入会式

高等学校の卒業式を翌日に控えた二月二十八日(水)、京都橘中学校・高等学校フェスティバルホールにて、春光会入会式を行いました。

二〇一七年度卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。新たに入会される二七二名の皆さんを心より歓迎し、松尾律子会長より卒業生代表の岩根弘治さんへ、春光会の会員証と、入会の記念品としてモバイルチャージャーを贈呈致しました。



入会式

どんどん開こう 同窓会

春光会では、学年、コース、クラス、クラブ単位等の同窓会開催、企画を援助するための補助制度を設けています。開催をご計画の方は事務局までご一報ください。補助金は左記のとおりです。

〔案内送付対象者数〕
20〜50人……………5,000円
51〜100人……………10,000円
以上、50人を超える毎に
5,000円アップします。

*補助を受けた場合、その対象者の名簿と、会報等で紹介したいので、報告書、写真等の提出が必要となります。



成人式を迎えた中学校Vコース1期生の集い



卒業10周年を記念してタイムカプセルを開封



104期3年6組クラス会



学園祭

九月九日(土)、恒例の橘祭が開催され、春光会も例年通り参加させて頂きました。いつも大好評のみたらしをはじめとした各種団子、洋菓子の販売を行い今年も完売。また、手作りの食用ローリエも販売し、使い方を聞かれるなど好評でした。

卒業生の展示作品として今年度は窪田ヨシ子さんのテンペラ画を展示。教室も華やかに、多くの人が鑑賞されました。毎年同窓の陶芸教室(橘幸会)の皆さんの作品もとても好評でした。

春光会(同窓会)コーナーではお茶をご用意して卒業生の皆様のご来場をお待ちしております。二〇一八年は好評の卒業生の作品展示に加え、今号八頁で紹介の京都サンガF.C.三選手へのインタビュー記事(ノーカット版)も展示します。ぜひ橘祭にお立ち寄りください。



二〇一八年 橘祭
★九月六日(木)
中学合唱・民舞発表会
高校合唱コンクール
★九月七日(金)
高校演劇コンクール
★九月八日(土)
橘祭

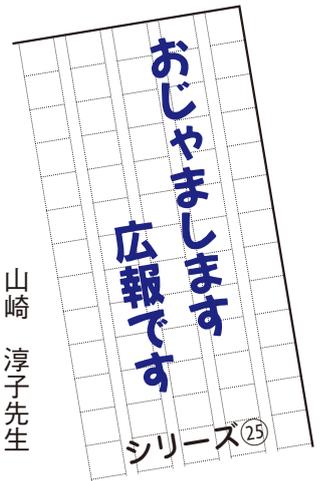


富士山登山 イケメンのお孫さんと 2017年8月3日(83才) 七合目で

その間、祖母・會祖母たちと一緒に吉田で暮らしておられました。お父様がお元気に帰国された後は、両親と弟と四人家族で紫竹小学校の近くに住み、幼少期は大切にされ、闊達な少女に成長されました。紫竹国民学校に入学。一年生の昭和十六年十二月八日に太平洋戦争がはじまり、日用品、食糧不足の続く中、五年生の夏に敗戦、その後新制中学校の制度が出来、山崎先生は、新制中学校第一期生の生活がはじまりました。待鳳中学校(後の旭丘中学校)は何もかも学校とは云えない様なひどい設備でしたが、戦前に造られたプールがあったので、水泳部に入られたそうです。教えてもらう先生方は、復員軍人で軍服を着て授業され、どの授業も内容が豊かで、先生のお話を聞くのが楽しみで、学校へ行く事が楽しくてたまらない日々でした。高校は、総合選抜制で共学の府立山城高校に入学されました。高校での話題は主に受験のこと、ラジオ、新聞の小説(井上靖の「氷壁」等)みなでよく語りよく学び、その為に門限九時が守れなかった事が何度もありました。一方受験勉強ばかりで、成績順の講座編成であったので手抜きをする事が出来ないので日々でした。大学受験では、親は浪人を認めず、国立の女子大学を薦め、京大受験など男女共学の大学受験に反対され、数学が得意で理系のクラスに進むつもりが受験大学を変えたことで大変な思

教師の喜び

山崎 淳子先生
(旧姓 寺野)



山崎淳子先生は、一九三四年(昭和九年)六月十日に京都でお生まれになりました。お父様は京都市役所の電気技師をされていましたが、三歳から五歳の間は、軍隊に召集され、中国の徐州を拠点に電気工事を行う軍隊の任務に就いておられました。

その間、祖母・會祖母たちと一緒に吉田で暮らしておられました。お父様がお元気に帰国された後は、両親と弟と四人家族で紫竹小学校の近くに住み、幼少期は大切にされ、闊達な少女に成長されました。紫竹国民学校に入学。一年生の昭和十六年十二月八日に太平洋戦争がはじまり、日用品、食糧不足の続く中、五年生の夏に敗戦、その後新制中学校の制度が出来、山崎先生は、新制中学校第一期生の生活がはじまりました。待鳳中学校(後の旭丘中学校)は何もかも学校とは云えない様なひどい設備でしたが、戦前に造られたプールがあったので、水泳部に入られたそうです。教えてもらう先生方は、復員軍人で軍服を着て授業され、どの授業も内容が豊かで、先生のお話を聞くのが楽しみで、学校へ行く事が楽しくてたまらない日々でした。高校は、総合選抜制で共学の府立山城高校に入学されました。高校での話題は主に受験のこと、ラジオ、新聞の小説(井上靖の「氷壁」等)みなでよく語りよく学び、その為に門限九時が守れなかった事が何度もありました。一方受験勉強ばかりで、成績順の講座編成であったので手抜きをする事が出来ないので日々でした。大学受験では、親は浪人を認めず、国立の女子大学を薦め、京大受験など男女共学の大学受験に反対され、数学が得意で理系のクラスに進むつもりが受験大学を変えたことで大変な思



奈良女子大学卒業式 1957年3月23日 右友人と(右側が山崎先生)

いをされましたが、山崎先生は、奈良女子大学文学部歴史学科に合格されました。大学時代は、学費は年間三六〇〇円でしたが、それと比べて奈良までの交通費は高額でした。

近畿圏の学生は寮に入れなかったため、長時間かけて通学されました。知らない国の歴史を学ぼうと世界史を専攻され、学生達で社交ダンス、山登り、スキー、又、信州大学が主催するキャンプにも加わりテント生活も経験されました。

一九五七年の卒業時は、不況の為就職することが難しかったので、大学専攻科に進学する事を決められたのです。同じ大学の同級生・友人に私立の京都橘女子高等学校の社会科世界史の先生にならないかと誘われ、自宅からも近く女子高校なので教師の道を進むことにされました。

京都橘女子高等学校の教師時代

教師時代の当初では、家庭科中心のカリキュラムの編成でありましたが、一九六〇年代の高度成長期になると高校終了後の大学進学者数も増え、教育内容のカリキュラム編成を普通科の高校へ転換される事にもない全講座の内容は、多岐にわたる大変手間のかかる作業でした。さらに職場で起きる様々

家庭生活の中で

な問題、そして学園の存亡にかかわる様なことも起き、山崎先生はその中に身を置き、奮闘され、定年退職する六十歳まで教師を続け、その後五年間は、同校の非常勤講師を務められました。

二十九歳の終わりごろ結婚。二人の息子さんに恵まれましたが、教師と家庭の両立は大変難しいものでした。仕事をすることはとても楽しく、高校教師の仕事だけは継続したいと決意されていました。結婚して十六年で離婚。長男の小学校入学に合わせて現在の北区小山に住む様になり忙しい中で子育ての難しさを痛感される日々でありました。人間関係作りと多くの援助によって多忙な生活を乗り越えることが出来たのは、仕事をやり続けたい、日本の社会の矛盾を分かっていた、という思いがあったからでした。子育てがきっかけで、加茂川ユリカモメを見に行く「加茂川ユリカモメの会」を京大理学部院生と小野喜三郎(日本科学者会議の京都の代表者)のお手伝いを受け、立ち上げられました。子供の遊びを中心に自然観察の活動を十年間行い、新聞やテレビでも紹介され、教師の仕事が自分自身にとって適当なのか疑問に思っていた頃でもあって、教師としての自信を回復する事が出来、教師力を高めることが出来たと思われたそうです。

息子さん達は「加茂川ユリカモメの会」での体験を通して、お二人ともアートの道を進まれています。長男の方は彫刻家に、次男の方も高校卒業と同時にパリのソルボンヌ大学でフランス

一九世紀以降のアジアの諸国について、日本との関係の部分を知りたいと勉強。その頃、岩波新書の「人々のアジア」と云う本に出会い、それがきっかけで、受験を経て龍谷大学大学院に入学。龍谷大学経済学部国際学専攻の修士課程に院生として三年間通われました。院生になられてからは、コンピュータとの格闘だったとのこと。日本語教師の資格も取得されました。民間学の研究生として在籍するようになり、JICAの外郭団体からの要請で、中国で日本語をボランティアで教えることになり二〇〇三年から二〇〇八年まで(一年間ブランクあり)常州に二年、西安で二年、日本語教師を務められました。山崎先生は、長い教師生活の最後は西安で締めくくることがになり、意欲的な大学生に向けて指導をし、最も充実し、自身にとっても教

定年退職後

京都橘女子学園一〇〇周年記念事業で、山崎先生は編集委員の一員として取り分け第一章 草創期の京都橘女子学園「明治の学園創立とその前史」等、難解な文言、文章、第一章から第四章までの部分を担当され、ご執筆され大きく貢献されました。

京都橘女子学園一〇〇年史製作

語を学びイタリアのカラーラピエトロサンタの大理石工房に入り大理石の彫刻をされています。アメリカのブロンズ彫刻の勉強にも出かけられ、現在はイタリアで大理石の彫刻を作る事とそれらの作品の展覧会をオーストラリアでされています。

師であったことの喜びをもたらず事が出来たと語っておられました。今尚西安で教えた学生の中に龍谷大学の院生として日本に留学してくる学生もおられ、彼らが日中関係の友好の促進、中国社会で役立つ人材になってくれる事を願っておられます。山崎先生は、「若い人がどんどん成長して変わって行かれる姿を見る事が嬉しくてしかたがないんです。」と話して下さいました。正にこのお気持ちこそが教師魂ではないでしょうか。感動致しました。そして「長きに渡り京都橘学園で務めさせて頂き、学校もこの様に立派になって行く、こんな嬉しい事はありません。本当に感謝しています。」と…。

「今は、立命館大学の国際平和コミュニケーションのボランティアガイドをさせて頂いています。学んだことをすぐに生かせる楽しい仕事です。」

今日も北山通りを暖かい日差しを受けて、元気はつらつと歩いておられる山崎先生の姿がありました。



仏教最初の伝来の白马寺(中国)
2008年 学生 李文闊くんと山崎先生

2018年度 春光会総会・懇親会のご案内

本年度の春光会総会・懇親会を下記のとおり開催いたします。同窓生の皆様お誘いあわせの上、懐かしいひとときをお過ごしください。ようご案内申し上げます。

今年度も、退職教職員の会である「橘翔会」と教職員との合同で懇親会を開催いたします。

懐かしい恩師もたくさんおみえのことと思いますので、ぜひご参加ください。

記

- 日時 **2018年6月23日(土)**
午前10時30分から (受付は10時)
- 場所 **京都ブライトンホテル**
京都府京都市上京区新町通中立売下る仕丁町330
TEL (075) 441-0489

❖地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」
2番出口付近から無料シャトルバスサービスあり

- ・地下鉄烏丸御池駅2番出口を出て直進 約60m (御池通り沿い両替町通と室町通の間付近)
- ・烏丸御池駅発: 毎時、00分・20分・40分(20分毎)

- 内容 **会務・会計報告・懇親会**
- 会費 **7,500円** (学生・未成年の会員は**3,000円**)

ご出席のお申し込みは会費の納入を持って受付とさせていただきます。準備の都合上、お振込みは6月15日(金)までをお願いします。



2018年度 秋の散策のご案内

春光会では毎年、秋の散策というバス旅行を開催しています。卒業生の父母の会である「橘幸会」や退職教職員の会である「橘翔会」と合同で開催しており、今年は淡路島方面への旅行を予定しております。秋の思い出づくりにふるってご参加ください。定員45名で先着順となりますので、お早めにお申込みください。

記

- 日時 **2018年10月13日(土)**
午前9時 京都アバンティ前集合 (午前9時20分出發)
午後6時ごろ 京都アバンティ前帰着
- 行先 **淡路島方面**
「あわじ花さじき」で一面のコスモス畑を堪能⇒「のじまスコラ(廃校をオシャレに改装したイタリアンレストラン)でゆったりと昼食・散策⇒淡路サービスエリアでお買い物
- 会費 **5,000円** (当日払いをお願いします)
- 定員 **45名** (先着順)
- 参加申し込み締切 **9月28日(金)**
- 申込先 京都橘中学校・高等学校 事務部 春光会係
〒612-8026 京都市伏見区桃山町伊賀50
TEL 075-623-0066 FAX 075-601-2125
e-mail:jimubu@tachibana-hs.jp

- 申込方法
お名前、ご住所、電話番号、卒業年を電話・郵送・FAX・メールのいずれかで本校までご連絡ください。春光会員、橘翔会員、橘幸会員以外の方はお申込みいただけませんので、ご注意ください。

開催日直前のキャンセルはキャンセル料をいただくこともありますので、ご注意ください。



今回は、京都サンガ F.C. でプロサッカー選手として活躍する、春光会員三名にお話を伺ってきました。彼らは、男子サッカー出身の仙頭啓矢さん、小屋松知哉さん、岩崎悠人さんです。練習の合間の貴重なお時間に、楽しいお話をしてくださいました。



今日は、よろしくお願ひします。まず最初に、京都橘高校を選んだ理由をお聞かせください。

仙頭…中三の時に、橘サッカー部の練習試合に参加させてもらい、サッカーのスタイルが自分に合っているなと感じました。その後、顧問の米澤先生に学校を案内してもらい、校内の雰囲気や施設を実際に見て、この学校なら自分は成長できるんじゃないか、何より米澤先生の元でサッカーをしたいと思いました。

小屋松…中学生の時に、選抜で、京都府トレセンに参加していました。その時の監督が米澤先生でした。ずっと指導していただいていた縁です。

岩崎…中二の時に、第91回全国高校サッカー選手権大会で、この二人の活躍を見て、憧れ、この人たちがみたいになりたいと思いました。それから、橘のことを調べたら、男子サッカー部だけでなく、頑張っていて力のあるクラブがたくさんあることを知りました。頑張っている人がたくさんいる環境で自分も成長したいと思いました。

— 京都橘に入学してよかったことは何ですか？
仙頭…クラブチームと違い、クラブ活動をしなから普段の学校生活も監督に見られています。

そういう環境で、人として大人になっていくのに大切なことを学びました。そういう部分で成長できたのが橘です。

小屋松…サッカー部に入って、高校サッカーの楽しさや厳しさを感じる中で、先輩後輩の関わりも学びました。その経験は、人として成長できました。橘は文武両道なので、いろいろな大変さでしたが、今思うと充実した高校生活を送れてよかったです。

岩崎…入学する時に、サッカーを頑張ろうと思っていましたが、米澤先生に「小屋松は、サッカーもできて、勉強もオール5やぞ。」って、言われて…。

小屋松…違うし！
岩崎…だからお前も頑張れよって言われました。サッカーだけをしてもダメなんです。勉強も常にクラストップを維持し、サッカーだけかよってならないようにしようと思っていました。両立できたのは、よかったです。

— こうやって、また同じチームでサッカーをできるのって、どんな気持ちですか？

仙頭…悠人とは高校ではかぶっていませんが、彼の活躍は知っていました。選手権の応援にも行き、悠人のプレーも見ていたので、絶対にプロへ進むんだらうなって思っていました。知哉とは、卒業後も時々連絡は取っていて、自分の大学卒業後の話もしていました。自分を飛躍させてくれた京都で、今また集まれたっていうのは、縁を感じますし、この京都で一緒にプレーできていることを幸せに思います。

小屋松…僕も悠人とはかぶっていませんが、悠人が中学生の時の練習参加で一緒にプレーしました。

岩崎…怖かったです。(笑)

仙頭…え、今のこんな感じとは違ったん？
岩崎…知哉くんは、全然しゃべらへんし、こんな感じじゃなかった！

小屋松…そんなに変わってへんやん(笑)。悠人は楽しみな選手やって、米澤先生からも聞いていました。啓矢くんとは、また一緒にやりたいっていう気持ちがあったので、自分の進路を決める時に、啓矢くんがいる東洋大学進学も考えました。そういう思いを経て、今プロという世界で一緒にプレーできているのは大きいことだし、光栄です。こうやって、橘のメンバー

が集まったことは、京都にとってもいいことだと思いますし、ここで自分たちが結果を出して、橘ももっと有名になってくれたら嬉しいですね。

岩崎…自分は、この二人に憧れて橘に入ったので、高校三年間は、二人のような得点王になりたいと思って頑張りました。卒業してすぐ、目標として二人と一緒にプレーできて、嬉しいですね。昨年、サッカーのことを学びました。外のこともたくさん勉強させてもらいました。

今年も一緒にプレーできるので、楽しみです。



写真左から 2012年度卒 仙頭さん、2013年度卒 小屋松さん、2016年度卒 岩崎さん

— 今も三人で橘の話はしますか？

岩崎…米澤先生の話とかしますね。啓矢くんはよく怒られてたつて(笑)

仙頭…選手権で全国に行くまではめちゃ怖かった。遠征では、すごい走ったし、ボールを持たない合宿もあって、これぞ「高校サッカー」っていう厳しさでした。

一同…そういう中で鍛えられたから、今も90分走り続けることができるんやね。

岩崎…でも、学校の持久走大会では2位でした。Sコースの人に負けました(笑)

— ところで、仙頭さんと岩崎くんにお付き合っている疑惑が浮上っていますか？

岩崎…お！濁しといてください(笑)

仙頭…グレーです(笑)最近、小屋松・岩崎がやしいです。

小屋松…岩崎…ないない！

岩崎…先日、啓矢くんが寮を出たんです。大卒は1年しか寮にいれなくて、僕は高卒なので2年間いなくといけなくて…(ご飯を食べる時もそれ以外でも、ずっと一緒にいたので、もう寂しくて泣く)。

一同…その言い方(笑)あやしい！

仙頭…俺も寂しいよ(泣)
一同…ますますあやしい！(笑)

— 皆さんは、子どもたちからお年寄りまで、みんなに元氣や勇氣を与えられる存在です。これからも応援しています。春光会の皆さんに、今後の抱負やメッセージをお願いします。

仙頭…橘高校を卒業し、大学を経て、この伝統あるサンガという京都のチームに帰って来れたのは、本当に橘があつてこそだと思っています。米澤先生をはじめ、いろいろな方々に感謝していますし、その恩を返すには、試合で活躍し、僕たち三人筆頭に、日本でも有名になっていくことが一番だと思っています。そして、観に来てくれた人たちの笑顔にできるような試合をし、皆さんに希望を与えられるような選手になりたいと思います。

小屋松…啓矢くんのメッセージがきれいにまとまっているので、これでもいいっすか(笑)

仙頭…まとまりすぎ？いや、各々あるやろ(笑)

小屋松…僕は、橘を卒業して、プロの世界に入らせてもらって、橘に came したからこの道が開けたと思ってます。米澤先生を含め、いろんな人たちに恩返しをしなければならぬと思っています。僕は京都出身なので、身近に後輩たちもたくさんいます。応援してください。人たちが、試合を観に来てくれた時に、勝利ということでも恩返しできればと思いますし、このサンガというチームを上にあげることにも貢献できればと思っています。

岩崎…ここに居る三人は、橘でサッカー人生が変わったと思います。サンガの中でもそうなんですが、この三人と言えは「橘」です。この三人が活躍して、各々の価値を上げるのも必要ですが、活躍することで橘の価値も上がるんじゃないかと思っています。今年、三人にとって大事な年になると思うので、活躍できるように頑張ります。

とても気さくな頼もしい後輩たちに、元氣と若さをいただきました。お忙しい中、そしてお疲れのところ、春光会の取材にご協力いただき本当にありがとうございます。このインタビューの詳細を知りたい方は、九月八日橘祭にお越しください。